



©Geert Vandepoele

© jun ozaki

坂田 明 ★ S O S

さかたあきら★エス・オー・エス◎さかたあきらおおおやぶん★さんじゅきねんライブ・イン・あいずみちょう

◎坂田 明 大親分 傘寿記念ライブ in 藍住町

▲大森菜々(ピアノ)

▲坂田 明(アルト・サクソ、クラリネット、ヴォイス)

▲坂田 学(ドラムス)

日時●2025年 6月17日(火)午後 7 時開演(6時半開場) 会場●藍住町総合文化ホール・大ホール

771-1203徳島県板野郡藍住町奥野字矢上32-1…電話●088・637・3344…FAX●088・637・3345…会場は藍住町役場の北東約百メートルの施設です

入場料●大学生・一般 前売3000円(当日3500円)…小中高校生 前売1000円(当日1500円)………全席自由★小学生未満の方は入場不可
前売り券販売所●藍住町総合文化ホール、エミール・カルチャー、小山助学館本店、フクタレコード、アーロンズ、ジャクソンズ
電話予約もOKです。坂田明SOS◎坂田明大親分傘寿記念ライブin藍住町実行委員会(小西昌幸、080・6386・2946)迄お気軽にお申し込み下さい

◆世界的ジャズ・サクソ奏者＝坂田明氏は2025年2月21日、80歳になった◆
傘寿を迎え、ますます意気軒昂な坂田大親分が、四国徳島の藍住町に再び降臨する。その姿は、荒み切ったこの世界に一条の光を与えるものとなるであろう◆
そしてこの演奏会は、昨年天国に旅立たれた谷川俊太郎氏を偲ぶものとなるであろう◆
坂田氏は東日本大震災の三か月後、福島県南相馬市海岸での鎮魂祭で「浜辺の歌」を演奏、深い感銘を聴衆に与えた◆そのレパートリーには東北の魚・鰯〔ハタハタ〕をモチーフにした荘厳で美しい曲がある◆公演は、国内外の天災や人災(戦争や原子力発電所爆発災害を含む)被災地への音楽による鎮魂と復興連帯への深い祈りを込めたものになるであろう◆豪放磊落◎落涙滂沱◎疾風怒濤◎人柄最高◎感動必至◎同志の皆さん、まなじりを決して多数ご参集下さい!

主催●坂田明SOS◎坂田明大親分傘寿記念ライブin藍住町実行委員会

共催●藍住町総合文化ホール

後援●徳島ギター協会

坂田 明 SOS◎プロフィール

★坂田 明SOS★

■1972年に山下洋輔トリオに加入してから半世紀以上、今年80歳の坂田明は、今もグローバルに活動し続ける。様々なグループの結成と解体を繰り返す彼の新バンド《坂田明SOS》。メンバーは、フリージャズの第一人者・坂田明、フリージャズと現代音楽が交差するピアニスト・大森菜々、ポップスからジャズまでボーダレスに活動するドラマー・坂田学（坂田明の息子）。3人は2017年に初共演し、その後かわいしのぶ（ベース）を加えた《坂田明COCODA》として活動を始めた。2023年にCD「枯れたひまわり」をリリースし好評を博している。2024年の北海道ツアーからトリオ編成の活動も開始。毎回予測不可能な演奏を「車窓から見える風景のように眺めてくれば良いのです」と坂田は言う。2025年《坂田明SOS》の作品を制作予定。各地でコンサートも決まっている。是非ともSOSの音をキャッチしていただきたい。

【坂田 明】 アルト・サククス、クラリネット、ヴォイス

■1945年、広島県呉市出身、広島大学水産学科卒業■1969年上京後《細胞分裂》結成。1972年～79年《山下洋輔トリオ》に参加、以後《wha-ha-ha》《DA-DA-DA ORCHESTRA》《MITOCHONDRIA》など様々なグループの結成、解体を繰り返しながら、世界のあちこちであれこれしながら今日に至る■現在はレギュラー・グループ、ARASHI (Johan Berthling, Paal Nilsen-love)、梵人譚 (Jim O'Rourke, Giovanni Di Domenico, 山本達久)、坂田明COCODA (大森菜々、かわいしのぶ、坂田学)、水晶の詠 (坂田明、栗田妙子、水谷浩章) を中心に数多くのセッションを展開中■著書に『ミジンコの都合』(共著＝日高敏隆、晶文社)、『クラゲの正体』(晶文社)、『瀬戸内の困ったガキ』(晶文社)等。近著は『私説ミジンコ大全』CD「海」付 (晶文社) ■DVD「MIJINKO a Silent Microcosm」■東京薬科大学生命科学部客員教授、広島大学大学院生物圏科学研究科客員教授■公式サイト <http://www.akira-sakata.com> akirasakata1.bandcamp.com

【大森菜々】 ピアノ

■1986年、愛知県岡崎市出身■幼少期をインドネシアで過ごし、高校の時に近代・現代音楽と出会い衝撃を受ける。その後渡米、インディアナ州バトラー大学にて現代音楽を中心に学び、ピアノ科学士号・修士号取得。その間、インディアナポリス近郊にて精力的に活動を展開。2010年に帰国後、ドラムスの酒井美絵子とフリージャズユニット《pd》を結成。2015年、《pd》初となるミニアルバム「usagi to neko」をリリース■2019年、《坂田明COCODA》に参加。ほか森山威男、小山彰太、Paal Nilssen-Love、Ken Vandermark、Frode Gjestadなどと共演。現在は《渋さ知らず》など多数のセッションに参加、東海地区を中心に活動中。

【坂田 学】 ドラムス

■1973年生まれ■父はサククス奏者の坂田明■10歳でドラムを始める。1993年米国MIへ音楽留学。帰国後ドラマーとしてキャリアをスタート。ポップスからジャズまで音楽性は幅広い。ピラニアンズ、ポラリス他多数のバンドにも参加。2004年ソロ・プロジェクトを始動し、アブストラクト、歌もの、サウンドトラックなど5枚のソロ作品を発表。風の箱 (カイトボックス)「なにげないもの」の舞台音楽、「よあけの焚き火」など3作の映画音楽も手掛けた。2023年、親子共演している《坂田明COCODA》のCD「枯れたひまわり」をリリース。本作収録の「枯れたひまわりのバラード」を作曲。近年は、あいみょん、大貫妙子、たなかりか、川村結花、T字路sのライブやレコーディングに参加する一方、即興演奏、ギター弾き語り、鹿島達也 (b) とのイベント、勝井祐二とのDUO、白井良明のRyomei Triangle、坂田明SOS、音楽制作など活動は多岐にわたる。